

にれのきタイム（縦割り班活動）

「ねえ、ねえ、縦割り班ってなあに？にれのきタイムってなあに」

「初めて聞きました。でも…6年生とか5年生もいるんだね」

そう、縦割りって、学級みたいな“同じ学年”の集団ではなく、異学年集団。つまり、お姉さんお兄さんがいるし、弟妹がいるってこと。1年生から6年生までいろんな年のお友達がいるってことなんだ。

本年度、楡木小学校は遊んだりボランティアをしたり、掃除に遠足にと、縦割り班をもとにした活動を数多く計画しています。とはいえ、我々昭和世代からすると縦割り班は日常でした。どこに行くにも先輩から教えてもらい、後輩に受け継ぐ。特に、放課後は必ず先輩後輩入り乱れて遊んで（ちょっと悪いことも教えてもらっていました…反省…）いましたよね。

しかし、最近は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、学年学級を超えてしまうと感染拡大につながるのではないかと、という懸念から、縦割り班活動が激減してしまっていました。

実際、本校の5年以下の子どもたちも、今回の縦割り班活動が初めての経験になるとのこと。6学年もいる小学校にとっては、もったいないことです。プルス・ウルトラのためには、異学年集団での活動は不可欠なのですから。

何がそんなに大切なのか？

先日、某テレビ局でぼ～っと生きていると怒られる番組を見ていたところ、時間の感覚が人それぞれ違うという話題が放送されていました。特に、若いころの時間はとても長く、年をとればとるだけあっという間に時間が過ぎてしまうとのこと。実感があるんだけど、なぜなのでしょう。

その原因が、「ときめき」にある、というのです。どういうことか。

子どものころは、何をするにも人生初みたいなきめきがたくさんあるようです。例えば、夕食時。ハンバーグがおかずに加えられている食卓を見て、子どもは大いにときめきます。

「うわ～、今日はハンバーグだ！このソースってなんていうんだっけ？甘くて、ドロツとしていて。おいしいんだよね。あっ！付け合わせにポテトサラダ！大好物だ……」

と、食べる前、食べている最中、食べた後までそのときめきは続くとのこと。

逆に、大人はどうでしょう。「あ、ハンバーグか（終）」

う～ん、残念。

もちろん、私たち教師は、子どもとともにときめきを忘れないつもりです。しかし、子どもたちと同じときめきを感じているかと言われれば…。その点、子どもたち同士のときめき、縦割り班の中の子どものきらめきは、数年ほどの小さなタイムラグはあれ、ほぼ同じ。さっき後輩が感じたときめきを、先輩は心底共感できる。そのときめきの意味を言葉にすることができる。ときめいている先輩の姿を、あ～もうすぐわかるかもとわくわくできる。

縦割り班には、同級生にはないそんな小さななりたい自分が見えるという良さがあるのではないかと思うのです。